

落栗庵月竝摺

2836



特
利
2836

今世のふらりをとせんとて此の世をうらめ
多きも視のふらりとありたれこの友らきを
雲のたれとてこよの行ふ新しとて路のあはれ
花の幸をうらやと集をこよきとをこよきと
柿のふらりとてひらきとて雲のこよきをこよ
のあらしとてちのこよきをこよきとて新の
川とてふれは細のむらとてこよきをこよき
すまやかとてふらとて麻付新しとて序を

つめこのこよ



落葉庵月並指

兼題 榴題狂歌

つめ草

石歌合巻

七女や庵をれそりおこされてあつたも
お目をあそりこよ

柳 花

山崎 白入

あつた柳の糸乃むをひと風よりあそりこよ

官女 摘草

生草 高田成

花がふめあれぬあつた摘草はを思ふ
あつた小所あつた

花 御風

二里 一目

春風のあつたあつたあつたあつたあつた

下戸 曲

横屋 女 告

下戸同士のあつたあつたあつたあつたあつた

山王権

京師分里

山王権の子のあそび権をうかすてあそびのさそふあり

上野権

京師分里

あそびるんはゆより寛永寺阿まも山王は中一寺此花

上野権

権侍花守

うはく急の水もあそびつるあそびあかまうそあそふ八権

上野権

友垣古女

あきりはめ一歌のよき時ありあそびく八権あそびてあ

馬士又夜

茶屋所末廣

あそびつるあかまうけ権あそびる馬士も権をあそびの山王

上野権

権之を初をみ

一権はあそびるあそびるあそびるあそびるあそびるあそびる

権所時鳥

守口花丸

あそびる権所のあそびるあそびるあそびるあそびるあそびる

上野権

あそびるあそびる

あそびるあそびるあそびるあそびるあそびるあそびる

上野権

酒盤金之上果

あそびるあそびるあそびるあそびるあそびるあそびる

上野権

小川所住

あそびるあそびるあそびるあそびるあそびるあそびる

上野権

権所花丸

あそびるあそびるあそびるあそびるあそびるあそびる

上野権

酒上石塔

あそびるあそびるあそびるあそびるあそびるあそびる

娘を牡丹

魚子の穴主

ふらふら花のさうら此妹う年牡丹ふかゆけし 志し此十六

多実家牡丹

吊る月酒床

富きをハ花あゆりうさうり火のちをきいさきおたくをき

社殿新樹

法大小弁光

誰かをふるれやうの神垣もそ神やあな毎年の志なるかしを

茨子とあつ花

福隣寺と桐狸餅

虫さあくそそち花の茨子坊を花のちうけ子あもそと福と

梅子

四谷 紀迪

ちうけふらうと花あ梅子の花もあつたあつや

古戦場と

魚つとあ花

磯ちうくむれを松の古戦場船八艘をよれあうう形

田植 啞蟬

秋の神内儀

そあこのの及此様田といつこの啞蟬も苗も川合あーと

ふ月多傘張

ふ月多の合先

ふ月多のふらうあつ種一傘をを種やつあつたあつた

あつーんを

ふ月多のあ

ふらうあつ種一傘をを種やつあつたあつた

あつーんを

梅と高足

あつたあつ種一傘をを種やつあつたあつた

啞蟬

松風音改

あつたあつ種一傘をを種やつあつたあつた

上野の蟬

赤葉のお情

あつたあつ種一傘をを種やつあつたあつた

七夕

鳥羽の清丸

きりぎりすに牛ひこちりやあかしくをとおそしやゆてあり姫
あやしくを

あやしくも下からん所ハあると此あやしいは此まきよ掛橋

七夕の雨

船昌朝真

あやしくも早のあやきのおもく夕へそ秋の要るうら

七夕の素直

大流世を縁后

早合の阿よ此川哉まき麵をふき葉のた〜あかけてとらる

盆掛取

鳥羽法師

信後ハ秘んひ祝喜利もや〜を拂くねもせたるもんを無ふ

石取

秋井物集

もを〜うのよふのもあれハあ〜梅もあ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

五

槐糸

吉野の紅葉

あやしくのあり〜む〜此〜う〜あ〜ま〜を〜今〜も〜ま〜敷〜れ〜あ〜あ〜り〜ぶ

石取

遠山年寄

秋とく青稗のま〜ま〜ら〜月の〜し〜ん〜〜あ〜か〜ゆ〜め〜あ〜あ〜れ

石取

浦島二丁廻

〜ま〜う〜た〜ま〜き〜鏡〜あ〜似〜る〜影〜を〜こ〜よ〜く〜も〜海〜に〜て〜下〜一〜の〜石〜取

山月

今昔の物語

さ〜え〜こ〜る〜月〜の〜種〜の〜つ〜る〜孫〜あ〜と〜山〜の〜う〜ま〜を〜た〜れ〜て〜人〜は〜け

喪衣月見

阿漕川廻

月〜う〜ん〜あ〜も〜ひ〜ひ〜き〜流〜テ〜の〜う〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ

挽句待石月

赤丹坊碓石

挽句は月見の〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

居待月

ぬけ表の近及

さうらうの雲のやうを鳴らせそまはるは縁の内をうら
月ふ蛤 号南女

蛤の玉をみかき月うけぬるまもさうて鳴るものみせん

氏を神の麻

兼扇法師

かきつらんまの十六むし一冊の草をぬくひよまらうやさを麻

小灰磁

常一寺阿馬

おぼろのおきそあつ秋の夜乃ちけて寝て衣うらこ急

表店接石

紀神中奴

お櫃の匂くききそこく店八九人さららの甘きあきま

角刀の表

沼谷持貴

夜やききき文やきき角刀丸くあ合のるま風やひくらん

古寺虫

坊舟、秋葉

そむしおをふる寺も今もや庭よきあくとむしの声

神の虫

和氣宗時方人

ハツル耳をうりもききく鈴虫の声もききるの京乃中は

と糸角刀

胡起之胡屯

よりかへこ糸角刀をもきき分のものをりをまきくの糸角刀

糸角刀

行る世おを

西糸角刀をとりあいつは海猪のかくやめよりのまこの音

糸角刀

女者、唐屋

糸角刀の糸角刀糸角刀糸角刀糸角刀糸角刀糸角刀糸角刀

縛屋時雨

田所、奴加家

糸角刀もかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

口切時雨

か茂之羽吉

口切やあきらむるのむら時雨よもよもせいのふり多そまげ

山 二巻

か茂之羽吉

あきらむるのむら時雨よもよもせいのふり多そまげ
あきらむるのむら時雨よもよもせいのふり多そまげ

山 二巻

和氣中を帰丸

あきらむるのむら時雨よもよもせいのふり多そまげ
あきらむるのむら時雨よもよもせいのふり多そまげ

不仁意

浪吉 浦門

不仁意をせむもせむ思ひ入れよ空のむらあの時をのこそめく
不仁意をせむもせむ思ひ入れよ空のむらあの時をのこそめく

不仁意

浪吉 浦門

不仁意をせむもせむ思ひ入れよ空のむらあの時をのこそめく
不仁意をせむもせむ思ひ入れよ空のむらあの時をのこそめく

不仁意

浪吉 浦門

不仁意をせむもせむ思ひ入れよ空のむらあの時をのこそめく
不仁意をせむもせむ思ひ入れよ空のむらあの時をのこそめく

不仁意をせむもせむ思ひ入れよ空のむらあの時をのこそめく
不仁意をせむもせむ思ひ入れよ空のむらあの時をのこそめく

ちの麦粉之志

大木之戸之志

ひびきにもやうくは麦のかりかきもあつたよむせうりぬる

ちの若る麦之志

巨之柿之志

つらも若のふめのひとをきそそはををあれぬ二八あり社

ちの十太路盤之志

餅花之志

十太路盤のふめあつたりの盤をかげてとりあき中のかみに

ちの車之志

ちの糸の志

ひくかへようばうくめあもくはるは志く海そよのじ

ちの葵大車之志

酒香之志

我志ハか茂のあひをえあつてくはあそく志を

ちの山吹之志

垣祝之志

七零八事かよめて思ひ山吹の花よのいとぬ人そつれあき

ちの桂之志

甘菊之志

我ちきる床柱のあひかありてはあひまいとぬれるこのをて

ちの角刀之志

お魚之志

赤魚は身ををつくくお角刀に分られことそくやーき

ちの紙帳之志

池之志

あそくくく青紙帳へあつと八紙をむもあのかくのほけりや

ちの子之志

連続之志

かあつても思ひ一志ををえる雲のあきかをあきんそく記

ちの楊枝之志

ちの糸の志

朝あくくあめんをこののきをつひきる楊枝ありりり

ちの柳之志

ひさの志

いあされ一時のつらあ川くてそひ程もあき志の改なり火

奇の堂之解意

大原の妻位

君の身をえらそそわれ祿立ぬあもちり日暮れぬあつ時

奇下野意

平生三里亭保

こぞの母のほこめ思ひ桐の中終ふにかきれて行ちんをあり

奇夢意

医者小路七郎

侍りひもほくへ年をさるる夢おとせあるひ中り祿の床

奇刀意

大原女孝

流るるもつとれかこゝの故思ひとれや死母と慕ふあつ意

奇一しを

紀 定 宅

あつれていふりこのとれやきひより祿とあるあつつま

奇田楽意

首尾 意 吉

えそめつる意ぬめお六田ふのくしくむをこがこそあれ

奇ふれ意

掛的 安 多 羅

あゆくし中を死此の立られをそは浮このつらめりて意

奇牛意

奇命 辭 新

あたまおは牛のよれ乃あのみよこみさうくかきおらむ

神主意

酒上之 奉 成

かろしや神子ちひをゆあまきさあげあさけのま意をこ

奇観意

御く 意 友 世

あひそめ祝乃海のふき中へめあひて意をよめるす

奇傘意

かりやの 意 友 世

あつしやあつし歌の意葉ささはらうに意のそつ世山

奇拍餅意

そん江のか 意 友 世

あつんきて独祿くハ拍餅扱のしうして君をまつ神

奇 蟬 意

大木と鏡に法向

きぬくのしつみおもむきを空蟬のぬけうらやうと別るそき
奇 糸 碗 意 小徳のこそく

若川まのふのふちいせやとあ碗あふれやまき意と情
奇 障子 意 磯形 己の女

いつつあそそ月日をこし障子流のあめぬきこの紙
奇 舟 粥 意 ちよと八耳意

おうちの人と并色あちりてはきれぬ思ひのしけ具足は
奇 口味 綿 意 ちよと一口味

こ味綿の始終くハア人のこくそし皮のそまぬ中と流
奇 時 斗 意 江戸川 意 加久

待アみるあふのしけの天時斗ひりうあてあぬおどき
+

奇 花 火 意

山 道 意 きた

むきあきえんの鑑火のおもえそまふるあふりかも
奇 雪 意 池 田 意 清 白

かこちまて待も思はる雪や鏡をまこのまの所もせそ
奇 江 船 意 詩 甲斐 意 春 相

くらきいあまげあふま子福ぬ縄やうきまもあ田のしけうら
奇 古 意 意 棒 意 八 中

我中は古き少神のさうこ肩うらびんあふちきうけくあ
奇 紙 意 野 見 意 夜

これをを借あふ紙あかきみのとくいとまきともあひらうげさ
奇 卒 意 意 みるれあふ女

かたしげのうすきちまきりあふまきとけあつき思ひハあも我あらる

奇 釋 意

記きのつらん

かこいひてちまひしるも今もあやうしうしをいふたかりん

奇 化物 意

たかこのむさし

あつりたるを西也ふもあつげあやむらつたこの中のおま

奇 ねえ 作 意

崇 小 人

二在りけて替るんはあまかやい福んあをやくむさうせよか

奇 系 統 意

島 井 人 成

いひらけと記んとるひらけもあつていふを急あをぬるる

奇 飲 意

酒 上 安 田 丸

山原の花はひらけもあつていふを急あをぬるる

人 傳 口 古

早 稲 田 公 羽

かろくもあつてあまかやい福んあをやくむさうせよか

奇 猫 意

緋 屋 朝 子

静かめしよとて猫のつとて月の時さくもあつてあまかやい福んあをやくむさうせよか

奇 風 意

紀 之 國 守

あけつめてさうあまかやい福んあをやくむさうせよか

奇 座 意

吉 原 初 意

さやこのさき座乃よあひた杖をつくこのありあう

奇 物 意

白 井 下 長 面

稲妻のひらけをあまかやい福んあをやくむさうせよか

奇 鈴 虫 意

衆 子 定 本

くうれあまかやい福んあをやくむさうせよか

奇 桐 意

喜 友 勝 秋 意

海の桐あまかやい福んあをやくむさうせよか

飯盤告別

四方赤白

旅人の別れより此思ひつめてあるこの世をめぐりしり

山中一舩

飯食方丸

山の智恵内のみま子をうかてはまた棹を尾花うつ流

閑居灸好

智恵内子

ハヤミを岸をあげく門をさへさくさくしてわきの山をわたり

宮中ヤシ餅

ふれ三和

ふれあさしのかかり哉かきあげてりあてをきおとる白

隠家

ふれ松三程

くれ舟のよさをたるれ家のひはれお氣をとおくそまもんぬ志を祈

老人吹笛

いづものふ秋波

周懐松年

曲る一老人や吹せん老人の月ハまき海ををりそらりし舟のまき

ふる士三味線

芋堀伸一正

ふる士のふる三味線よりふるりふるりふるり馬のかんとふるりふるれ

菊三味線

舞臺神をく網

三味線のかきふる菊のひきさるえあくくそくかちりこそまれ

雨中一飯盤

自分舟子漣

村あれあ多めあ種とふる飯盤のまををあててさー扱ません

食禁多智

水川一ほくせん

あぐハ食禁禁多あれひあをんそ福まきくろまかあ多智

夜一尺八

酒後や成保

尺八のあまあまらあ福もやそて我かひとあのかーこめてく

大人一産

一生一厨中程

大人あまらあ福もやそて我かひとあのかーこめてく

系人會簿版

十 茂の系

大佛のちうもあふる一系は系會志とく一其のあくまは
川 洗濯 時辰破換あむ

穢のめ其まきあふるや洗濯の神候とをたさぬの川 洗濯

天人洗濯

洗濯可移り方

天人はまれば電業好むをひまらまらとらしくせざる

噴洗濯

至月尚也

洗濯と云う夜乃ちうきハそくもあく日何のりあむ

角刀丸灸作

物年時順改

馬場會簿

冥火の左(むつあき)もさすてはちをひ移るなむ

新世帯

多怪織捕

あふ世帯 東中うられ空うらもこの人々風れあくらん

噴 種

今も所録 摺 実副

ひとあふ種うらむをて控種はいつれ種あふ種て日そ

戦場好垂

細破換針案

思あつ布へあぬ平衣のまげ好垂一五んりのや改さる

有 取 燈 乳

山 巾 一 立 本

燈乳の海く夜衣を夕有取もく仲人のこもたれみたり

河 音 多 燈 乳

草 於 時 音 燈 志

あはれいんをせれ山の花よああゆより神く川 右 席 成

古 系 經 表

三 本 有 心

古系あふる一かりウ名の澤もくこあぬ所へくのあけも經表

終 盡 飲 酒

早 迎 茶 摺

あはれ神ハさぬ洲のから種利ありさげをれ終の盡くを

品川徳徳

明石徳徳

この神のあり神の浦まきとてんれをふらうこのつゆやうきん

徳志女良愛

志志良桃実

申三のめくあふんころやとんりらあかふるげんのげんきけ

徳女村良愛

有徳神成不利

白をを六勝えゆ妙女を指そてきたる徳女のとりのつら

書為松見良

深赤神志徳

そろあ一の女を指のひと徳のりえんもちんえん郡那の良

神を徳り

徳万里太丈

朝きりををらひきまのあつ神皇のあり徳をり徳無山とえ

己待徳り

卯原太丈か

己待とくと徳とらの目此道つ徳ハ海りぬぬを江の徳の徳

掛取新教

志面於毛長

志面於毛長院に徳り神も徳も徳も人の徳もとてり

寺系

小白太丈七升

徳又徳母の舟徳はあのおらうつ徳け字は寺は徳ある徳

徳広徳食

板家常恒

徳又徳母の舟徳はあのおらうつ徳け字は寺は徳ある徳

徳人形な母

又徳徳徳命

徳人は是もた生れあひ徳南を向くこあや赤をり

如日本末究竟等

徳樂 菅江

鳴る名を鶴とほきけやを徳をそハ徳が

令持徳徳

平 虎良

徳令のあーからぬ男もをぬ徳ハ小判のあーのあれたくやき

和歌述懐

柳慶彦作

老の身ハ何ぞある所の和歌此かたるあつらん此風をくも

和歌育述懐

一文字 自報

あつらん此かたる年つきれうしあつらん此風をくも

和歌育述懐

和歌 白くも

和歌育の月乃かゝるがハ琵琶をも世をもくもんしとて

大神樂述懐

朝 森 屋 記

あつらん此かたる年つきれうしあつらん此風をくも

和歌 夜述懐

和歌 晝道

あつらん此かたる年つきれうしあつらん此風をくも

和歌 毎日

和歌 晝道

あつらん此かたる年つきれうしあつらん此風をくも

和歌物述懐

純奈彦作

和歌をよほのれかゝるがハ琵琶をも世をもくもんしとて

神 和歌

和歌 晝道

あつらん此かたる年つきれうしあつらん此風をくも

和歌 下大神樂

和歌 晝道

あつらん此かたる年つきれうしあつらん此風をくも

和歌 和歌神祇

和歌 晝道

あつらん此かたる年つきれうしあつらん此風をくも

和歌 和歌神祇

和歌 晝道

あつらん此かたる年つきれうしあつらん此風をくも

和歌 和歌神祇

和歌 晝道

あつらん此かたる年つきれうしあつらん此風をくも

奇形塔神祇

舟杖をたかる

くみ種めも徹をこすれかきんまげてあゆみの客人のま

奇竹杖祝

加保子あえん威

一ふしあ代をこめる竹杖まつめんとそそる成めてとれ

奇酒祝

松舟くめとせ

あんのりやあかすむをいりあ代も末廣くと祝し申汲

奇舟子祝

古濃務雄

舟のあひさきハあ代もそそく揺ふ布袋舟か

奇細祝

掃舟の成

甲船浪志の甲の葉舟舟めとふとそいといひつるも

奇荒祝

大東多石

あ代もそそかきれる竹も舟甲の荒は屋うねてあ代やへん

奇傘祝

てくしの是者

一ふしあ代もこめて傘の柄乃より舟の葉をこそく

奇井祝

紀信年一

車井より舟より人の徳の甲つるあ代もそそく舟

奇筆祝

紀高婦安

あまゆゆるさるしれ筆の徳をうかきつるあ代もそそく舟

奇海祝

足船船只耳

治りそゆこのなる戸のあま海子浪舟のあ代もそそく舟

奇百足祝

鳴船音人

むのしあのみうこの山のむえをもたつるあましあひん

奇河祝

鄙野中道

あつらあるあ代のあまや船をうづ浪の船乃りうとそそく舟

奇草双纸祝

芝の庵全交法海

草の双紙之儀あり花をさそ花又こころを免とせしめてこま

奇踊祝

麻叶教士の歌

松命をよ母のちしめ踊るは君はそつこく西王母命

奇石白祝

海西の庵
をせりのり網

くあきなる君のみをけ乃るあ神ハ世代のあまーよ人を川白

天明三年卯十月



天照三受御

十一

美口一丁目

保次八郎玄清

江戸橋四日市

上 徳屋利多清

東林虫林

三保八丁西
三保八丁西
三保八丁西
三保八丁西

表共20
外表2

6+

